

第 59 回番組審議会議事録

1. 開催年月日 平成 28 年 6 月 20 日(月) 午前 10 : 30 ~ 12 : 00
2. 開催場所 COM 倶楽部会議室 (箕面市船場東 2-5-47 COM3 号館 5 階)
3. 委員の出席 委員総数 7 名
- 出席委員 6 名
- 出席委員の氏名 稲垣千秋、稲井信也、桑田政美、中村保
高谷和彦、神垣美代香
- 欠席委員の氏名 須貝昭子
- 放送事業者側出席氏名 藤井 栄治 (取締役統括部長)
大平麻由美 (編成課長)
野間 耕平 (編成課員)
4. 議 題 1) 番組 まちのラジオ第 2 週 大阪大学社会学連携
2) 審議
3) その他番組に対する意見
5. 議事の概要 事務局挨拶の後、稲垣委員長が議長となり審議となる。

6. 審議内容

1) 番組

(1) 事務局より番組説明

大阪大学の学生が聞き手となって、大学の教員や学生などが研究や取り組みなどを紹介しながら、大阪大学についての情報や魅力をお伝えする番組です。

これまでに、「くずし字アプリ」を開発した飯倉洋一教授(大学院文学研究科)、数学者の日比孝之教授(情報科学研究科)、ボランティア行動学が専門の渥美公秀教授(人間科学研究科)といった教授陣のほか、同大学のオリジナルウィスキー開発プロジェクトメンバーや全日本大学かるた選手権大会で二連覇の実績がある競技かるた会、レゴ部などの学生のみなさんが出演しています。

大学は「知」の先端を行く拠点であり、中でも大阪大学は規模・研究において国内屈指、世界でも有数の大学といえるでしょう。その主な三つのキャンパス(豊中、吹田、箕面)を結ぶ三角形「阪大トライアングル」は、箕面市の市街地をすっぽりと収めます。

このように、地理的に密接な関係にある一方で、大学という閉ざされた空間の内部については、市民にあまり伝わっていない現状があります。せっかく巨大な知の集合がすぐそばにありながら、中で何が行われているか全く分からない…。なんとかその研究や取り組みをラジオで紹介できれば、興味深い番組になるのではないかと。そう考えて、大学に番組企画を打診しました。

大学側も、地域社会との連携の方法を模索していたところで、両者の思惑が一致し、番組が実現。2010年4月から現在まで、毎月1回の放送を続けています。

今後、箕面キャンパスが船場地区に移転することも決まっており、さらに連携を拡大していきたいと考えています。

番組情報は、大阪大学21世紀会懐徳堂のメールマガジンでも配信しています。

(2) 審 議

委員長：事務局から番組説明がありました。それではさっそく番組審議をお願いします。

委員 A：大阪大学の箕面キャンパスが船場に移転してくる予定で、市民もキャンパスを活用しないともったいない。「子ども大学」や「老人大学」など、大学による一般向けの催しを、ラジオでも放送できれば、とてもいいと思う。番組を聴いて、今後、大阪大学とタッキー816が協同する番組が広がっていけば、とワクワクした。今回のゲストの工藤先生は、私と同世代なので、学生時代の話や親との葛藤など、共感する部分が多かった。私も、歳を取ってから学びたいという思いで、他大学の市民講座を受講したこともあるが、遠くまで通うのが大変だった。ラジオで、歴史や美術、文化など、いろいろな先生の生の声を聞けたら、本当にありがたい。

委員 B：トークの中身については、分かりやすく面白いので、何回かやればファンがつくのでは。番組の1時間の中で、何十年もやってきた研究を伝えるのは難しい。気楽に聴くという意味では、今回はいい番組だと思った。ただし、社学連携という意味を考えたとき、大阪大学のホームページ一つとっても、21世紀懐徳堂のホームページを見ないと、この番組のことが出てこない。せっかくの試みが隠れてしまっている。タッキーのホームページもデザイン的に問題があり、早急な改善が望まれる。社学連携のサイトとリンクを張るなり、高校・大学と連携しているというバナーを作るなりすれば、もっと分かりやすくなる。リスナーがまだ少ないだろうから、チラシを作って図書館に置くなり、いろいろな形でアピールが必要。大阪大学の学生食堂で収録するなどの試みも面白いのでは。

委員 C：放送意図の「社学連携」については、大変いいことだと思う。若い学生が参画しており、研究や取り組みを紹介しながら、情報や魅力を伝えるという内容にも、賛同する。ただ、今回の内容は、それが伝わってこなかった。ゲストによって、聴きたいポイントは異なり、例えば競技かるた会であれば、こんな面白いことをしている、教授であれば、こんな研究をしている、でいいと思う。今回の出演は、理事のかただったので、

番組中で言っていた「市民に愛される大学にしたい」ということについて、具体的な内容を、理事という立場から聴きたかった。放送の主旨を出演者にも理解してもらい、「こういう話をしてほしい」ときちんと伝える必要があるのでは。

委員 D：大学は何をしている所か、外部の人間にはよく分からない。今回は、男女協働参画についての話と、人生論についての話で、こういう人もいるんだなと思いながら聞いていた。「地域の方は大学を大いに活用してください」「大学を誇りに思い、愛される大学になりたい」という言葉をメモした。「ら抜きことば」についてのお話は興味深く、この番組を聴いてちょっと賢くなったな、などと思った。最初は肩の凝る話と思っていたが、聴いていくうちに面白くなった。

委員 E：ゲストの、生き方や考え方についての話は面白い内容だったが、本来の放送意図とはちょっと違うのかな、と感じた。他にもいろいろな大学生、高校生の番組もあるようだが、そういう結びつきで番組を作っていくのは、地域にとっても必要なことだと感じる。大阪大学の移転は市民にとっても関心が高く、中でも図書館を大学と市が共同で運営することについて、新しい形の図書館に期待が膨らんでいる。

委員 F：(欠席・コメント) 話し手のお話が楽しかった。同年代のかたなので、飽きずに聞けました。若い聞き手との世代間のギャップも、うまく出せていました。リスナー層は中高年だと思いますが、若い人にも楽しめた内容と感じました。

委員長：今後、船場地区は、大阪大学箕面キャンパスが来て、図書館が来て、大きなコンサートができるホールも考えたり、ただ街をきれいにするだけではなく、山がいくつもあり、その中でも大学がやはり一番関心がある。いい意味で利用しなければ、市民が何も行動せず何もできなかったと言われたらたまらない。みのおエフエムのみなさんの力で、プラスアルファ肉付けをしてもらって、大阪大学が来た中で、番組をどのように入り込んで発信していくかというのも、これからありかな、と夢が膨らんでいます。そのきっかけにはなっているのかな、と。具体的に、こういったことも可能なのでは、という話を重ねていくのも大切なので、これからもよろしくお願いします。

委員 B：例えば、番組作りの際に、市民も同席して、「大阪大学ってどんなことができるの？」という質問をするのは可能ですか。そういう風にやらないと、身内だけの話になってしまうので。「こんなことできませんか？」と問いかけていくことができれば。

委員 A：番組中で、ドイツの「子ども大学」について言ってらしたので、「じゃあ、大阪大学でもやりませんか？」とその場で聞くことができればよかった。きっと答えてくれたと思います。番組でのお話から、ゲストの人柄はよく伝わったし、親しみを感じました。

委員 B：こういう市民参加をやるともっと面白くなる。今は市民目線が少ない。

事務局：おっしゃる通りで、今は学生が番組を担当していますが、広く市民に呼びかけて、市民も番組作りに参加できるような形にできたらいいと考えています。今後、収録の際に、関心のある市民に見学に来ていただくなど、進めていけたらと考えています。

委員 C：「ふらっとちゃっと」を作っている大学院生たちは、市民の反応を知りたいということで、市民団体の我々と会合を持ってやっている。せっかくの番組ですし、もっと市民と語りながら作ってほしい。

委員長：これから徐々に、コミュニケーションを取りながら、広げていってください。

7. 審議機関の答申又は意見に対してとった措置の内容及び年月日

なし

8. 審議機関の答申又は意見の概要の公表

自社放送

事務所への備置

ホームページ (<http://company.minoh.net/>)

上記事項を明確にするため、この議事録を作成する。

平成 28 年 6 月 20 日

箕面FMまちそだて株式会社 番組審議会